



県精神保健福祉協会会長表彰を受賞

傾聴ボランティア「eはあとの会」

町内の傾聴ボランティア「eはあとの会」（伊勢田芳枝会長、会員12人）は、認知症カフェでの傾聴活動や自死対策事業の啓発活動などの取り組みが認められ、県精神保健福祉協会会長賞を受賞しました。

同会は、平成25年に町が開催した傾聴ボランティア養成講座の修了生で結成。町の認知症カフェなどで活動しており、伊勢田会長は「皆さんの良き話し相手として、表彰を励みにして頑張りたい」と語りました。



義経伝説とは—

「浄土の館」で平泉夜学が開講

義経伝説について学ぶ「平泉夜学」（町宿泊交流体験施設「浄土の館」主催）は令和5年11月22日、全4回の日程で浄土の館で始まりました。

初回の同日は、岩手大学客員教授の千葉信胤さんが、町内外の受講者約40人を前に「義経伝説の悲劇」と題して講話。悲劇の英雄として「判官びいき」の由来にもなった義経の人物像について語りました。

次回は1月24日（水）に浄土の館で開催されます。



祝福受け笑顔で「ありがとう」

千葉艶子さんが100歳迎える

平泉字片岡のグループホーム「けーせん」に入居する千葉艶子さんは令和5年12月2日、100歳の誕生日を迎えました。前日の1日、青木町長や施設関係者らから祝福され、花束などを受け取った千葉さんは「ありがとうございます」と話し、笑顔を見せました。

千葉さんは一関市萩荘出身。結婚を機に町内に移住。3年半前から施設で暮らし、100歳を迎えても押し車を使って歩き、食事も自分で食べて過ごしています。



来館者10万人を達成

令和4年7月開館の町学習交流施設エピカ

町学習交流施設「エピカ」は令和5年12月1日、来館者10万人に達しました。同日午前11時ごろ、一関市中里の主婦水落舞子さん（36）、長男綜志ちゃん（1）が来館して10万人達成となり、青木町長や吉野教育長らが出迎え、くす玉を割って節目を祝いました。

週2、3回ほど来館するという水落さんは「きれいな施設で、職員が優しい。キッズスペースによく遊びに来ていて、助かっている」と笑顔で話しました。



悲惨な事故のない地域に

交通安全運動推進町民大会

令和5年度町交通安全運動推進町民大会（町、町交通安全対策協議会主催）は令和5年11月24日、町学習交流施設「エピカ」で開かれ、出席者が交通事故のない安全な地域を築くことを誓い合いました。

町内の関係機関・団体などから約90人が出席。令和4年10月～5年9月を前・後期に分けて実施した行政区対抗交通安全コンクールで前期1位の18区、後期1位の20区などが表彰を受けました。



県社会福祉大会会長表彰受ける

民生委員・児童委員の佐藤謙一さん（6区）

民生委員・児童委員の佐藤謙一さん（6区）は、15年以上在職して地域の福祉増進に取り組んだとして、県社会福祉大会会長表彰（社会福祉事業功労者）を受賞。令和5年12月5日に青木町長を訪ねて報告しました。

平成19年12月から民生委員・児童委員を務める佐藤さんは、町民生委員児童委員協議会長などを歴任。「地域の絆を強くし、助け合いが必要との思いで活動してきた。体が続く限り継続したい」と述べました。



観光振興に向けた支援を依頼

平泉観光協会が町長に要望

平泉観光協会（千葉力男会長）は令和5年11月29日、令和6年度予算要望を町に行いました。観光客が回復傾向にあることなどを踏まえ、春の藤原まつりの開催事業費の増額などを求めました。

同日は千葉会長が青木町長に要望書を手渡し、観光振興に向けて町の支援を依頼。インバウンド（訪日外国人旅行者）の増加を受け、観光地までの足を確保する二次交通の充実にも取り組む意向を示しました。